

# 柏市民活動ニュースレター

2022年12月発行 第27号

## フリーマーケット「ぽかぽか市」、雨ニハカテズ!!

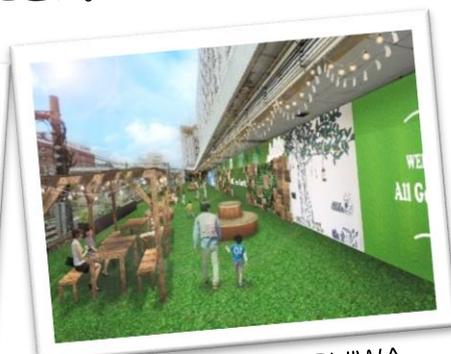
- ◇ 毎年恒例の市民活動団体の祭典・フリーマーケット「ぽかぽか市」は、今年も11月23日に開催する予定でしたが、残念ながら雨で中止になりました。  
⇒現在、3月開催（延期）に向けて準備を進めています。正式に決まりましたら、ホームページ「かしわん、ぽっ？」などでお知らせします。
- ◇ 「ぽかぽか市」は中止になりましたが、今年の秋冬も市民活動団体が参加する多彩なイベントが各地で行われています。是非、足を運んでください。



アートラインかしわ 2022



開智国際大学「柏学祭」



GREEN UP KASHIWA  
(柏駅東口周辺)

## 「手賀沼スクールヤード」が、ちばコラボ大賞を受賞!

- ◇ 朗報です。市民活動団体も参画して手賀沼アグリビジネスパーク推進協議会が取り組んでいる「手賀沼スクールヤード」が、他のモデルとなる優れたコラボ事業の事例に贈る「ちばコラボ大賞」を受賞しました。  
⇒詳しくは2ページをご覧ください。

### <目次>

はじめに	・・・1ページ
手賀沼スクールヤード ちばコラボ大賞を受賞	・・・2ページ
協働まちづくりサロン「子ども・子育てにやさしいまち・かしわを創る」	・・・3ページ
市民活動講座「助成金獲得のための基本」	・・・4ページ
協働まちづくりサロン「災害時の助け合いを考える」	・・・5ページ
市民活動講座「柏の歴史文化を活かす」	・・・6ページ
たまご補助金団体の活動紹介（幸紡会ラボかしわ/305Basketball）	・・・7ページ
柏・愛らぶ基金団体の活動紹介 ほか	・・・8ページ

トピックス

『手賀沼スクールヤード～手賀沼を校外の学び場に～』  
ちばコラボ大賞（千葉県知事賞）を受賞！

千葉県では、地域の多様な主体による連携事業を対象に、他のモデルとなる優れた事例を「ちばコラボ大賞（千葉県知事賞）」として表彰しており、2022年度は、10月20日に第12回ちばコラボ大賞の審査会が行われました。

審査の結果、柏市の手賀沼アグリビジネスパーク推進協議会が取り組んでいる「手賀沼スクールヤード～手賀沼を校外の学び場に～」が、佐倉市の「産×学×官SDGs共同プロジェクト」と共に大賞を受賞し、12月23日に千葉市で表彰式及び事例発表会が開催されました。



「手賀沼スクールヤード」は、手賀沼エリアで活動する市民団体、農家、漁協、企業が連携して小中学生向けに【農作業体験】【水辺・水上アクティビティ】【環境学習】【歴史・文化体験】の4つのプログラムを提供し、校外の学びの場を創出する事業であり、市民活動団体の「我孫子野鳥を守る会」や「柏観光プロダクション」なども、コラボ団体としてこの事業に参画しています。

《コラボ団体》

手賀沼アグリビジネスパーク事業推進協議会、EDGE HAUS、鹿倉農園、てがぬまパドルクラブ、手賀沼まんだら、我孫子野鳥を守る会、住み良いまちづくり研究所、手賀沼漁業協同組合、柏観光プロダクション、urban design partners balloon、柏市

我孫子野鳥を守る会【野鳥観察】

手賀沼に生息する野鳥を観察する「探鳥会」を開催すると共に、「道の駅しょうなん」で鳥の名前当てクイズを行うなど、子どもたちに野鳥観察の楽しさや手賀沼の自然の大切さを伝える環境学習を提供しています。



左上：野鳥観察  
左下：キンクロハジロ(雌)  
右上：ツグミ  
右下：団体メンバーの説明

柏観光プロダクション【歴史文化体験ツアー】

手賀沼南丘陵地の鷺野谷地域を歩いて巡りながら、千年以上続いている集落「千年村」の暮らしの知恵を子どもたち伝え、地域の伝統行事「鳥ビシャづくり」や医王寺での「木魚叩き」などの体験を提供しています。



左上：谷津田の風景、左下：鳥ビシャづくり、右上：医王寺、右下：木魚体験

この事業は、子どもたちが身近な環境に目を向け、再び手賀沼を訪れて様々な活動に参加してもらうきっかけとなることを目指す取り組みであり、未来の柏を担う子どもたちを育成する校外の貴重な「体験を通じた学びの場」として普及するよう、今後の活動を楽しみにしています。

柏市における子ども・子育ての現状や課題を知り、市民活動団体と行政との協働を考える、協働まちづくりサロン『子ども・子育てにやさしいまち・かしわを創る』が9月15日に開催されました。

最初に柏市こども政策課および子育て支援課から柏市の現状と課題、今後の計画等を聞きました。そして、松戸市で長年にわたり市と協働し、子育て支援の活動をしている、NPO法人松戸子育てさぼーとハーモニー理事長・石田尚美さんから、市民活動団体としての成り立ちやあゆみ、松戸市との協働事業の内容、協働についての考え方について伺いました。

石田さんの「協働を進めるためには、市民活動団体と行政がそれぞれの役割及び責務のもと、お互いの自主性を尊重し、十分な協議と理解の上、目的を共有し、対等な立場で連携・協力する。そのために双方の特徴を踏まえて進めることが必要。地域課題をいかに共有し、資源を持ち寄り、どのようにして解決に向けて進めていけるかを一緒に考える」というお話しが印象的でした。



《協働まちづくりサロン話題提供》

- ・柏市こども政策課職員
- ・柏市子育て支援課職員
- ・NPO 法人松戸子育てさぼーとハーモニー 理事長 石田尚美氏

《出席者》 14人

- ・市民活動団体に所属しているかた
- ・興味のある個人
- ・柏市社会福祉協議会職員

《参加者アンケートより》

- ・松戸の取り組みは大変示唆に富んだ内容だった。
- ・行政の子ども関連の担当者、子育て関連の団体の方と会える良い機会となった。
- ・多くの方が子育て支援を積極的に行いたいと活動していることを知り胸が熱くなった。
- ・団体それぞれの活動内容を知りたかった。
- ・グループ討議の時間があるといいと感じた。
- ・このような会合を継続していくことが大切。



同室で、ボランティアのスタッフが参加者のお子さんを見守りました。



サロンの開催情報は、柏市子育てサイト「はぐはぐ柏」や、LINE などでも告知されました。

今回のサロンでは、参加者同士でお互いを知ったり、意見交換できる時間が足りなかったのご意見もありました。これをきっかけに子ども・子育て関係団体同士のつながりが深まるような交流会や勉強会、意見交換等の機会を創出する動きが生まれてくることを期待したいと思います。

## 第3回柏市民活動講座（10/22） 助成金獲得のための基本

10月22日（土）に、柏市民活動講座「助成金獲得のための基本」を開催しました。

この時期は、様々な助成金交付団体が次年度の助成金に向けての募集を行いますので、それらの助成金を獲得して効果的に活用していただくために、「そもそも助成金とは何か？」という基本から、NPO 法人まつど NPO 協議会の理事であり、まつど市民活動サポートセンターのセンター長でもある阿部剛さんに講義していただきました。

講義の流れは以下のとおり。

1. 「助成金貧乏」にならないために
2. そもそも助成金とは何か？
3. 助成金を見つける～申請するポイント
4. 事例から学ぶ活用するためのコツ
5. 自分の活用方法を実際に考える

講義の要点をきわめて短くまとめると、まず前提として、助成金とは助成金を交付する団体にとって、NPO の活動や団体を応援するために支援金ではなく、社会課題を解決するために市民活動団体や NPO に対して行う投資であり、事業や活動に対して出されるお金であるということ。助成金を受ける側は、助成金を交付する団体が何を求めて投資するのか理解し、投資に対してどう応えるか考えることが大事であることが説明されました。

その上で、助成終了後に、助成を受けていた事業や活動をどのように継続していくかも含めて、助成金を受ける団体としてその助成金をどのように活用するか考える必要があります。これは、助成金のために事業をつくる悪循環（助成金貧乏）に陥らないために長期的な視点で助成金をどう活かすか、また、そのためにも自分たちの活動に見合った助成金を見つけることにつながります。

後半は助成金の申請書類の書き方についても細かく説明していただきました。そして最後にわかりやすい申請書類を書くためのワークとして以下のお題が出されました。皆さんも考えてみてください。

1. 助成を受けたい事業は何ですか？
  - ・タイトル（20 文字内）
  - ・事業概要（200 字以内）
2. なぜ助成を受ける必要があるのですか？
  - ・他の資金調達（寄付、会費、事業収入）

阿部さんの講義のあと、市民活動サポートコーナーから柏市の市民公益活動をお金で支援するしくみである柏市民公益活動育成補助金（たまご補助金）と、柏市民公益活動促進基金（柏・愛らぶ基金）の説明をしました。今回の講座の受講者は 12 名。そのうちたまご補助金をすでに利用されている団体もあったため、主に柏・愛らぶ基金についての説明をしました。

市民活動団体の財源は他にもありますが、助成金は活動を発展していく上でとても効果的です。うまく活用していただきたいと思います。



## 第3回協働まちづくりサロン（11/16） 災害時の助け合いを考える

11月16日（水）に、協働まちづくりサロン「災害時の助け合いを考える」を開催しました。

災害時の地域における市民活動団体等の連携については、これまでの協働まちづくりサロンでも意見交換を行ってきましたが、今回はより具体的に、どのような助け合いが考えられるか、意見交換しました。

市民活動団体からは、ママパパBOUSAIライフ、ママコミュSMILE）、柏市防災研究会、柏市地域協働を考える会といった、日頃から防災について取り組む団体や町会・自治体の支援の中で地域の防災活動などに詳しい団体が参加し、柏市社会福祉協議会は災害ボランティアセンターを設置する立場から、市からは防災安全課と市民活動支援課が参加しました。



毎年のように台風や豪雨災害の被害が日本のどこかで発生しています。まず話題提供として、市民活動サポートコーナーから、静岡県に大きな被害をもたらした令和4年台風第15号の被害と、そこでの災害支援団体の活動等について、行政、市社協、市民のそれぞれの役割について、多様化する避難形態と共助、そして災害時の情報と地域の多様な主体との連携について情報提供し、それをたたき台に意見交換しました。

今回のサロンでは、ママパパBOUSAIライフ、ママコミュSMILE）という、子育て世代が中心になって防災に取り組む団体から、町会・自治体等による既存の地域活動と接点の少ない子育て世代にとって、やはり災害時の地域情報をどのように得るか、災害時の助け合いに必要な平時からの関係づくりができていないことなどといった課題があげられました。

一方で、高齢化が進み担い手不足に悩む町会・自治会にとっては、災害時の助け合い等で若い世代の住民が町会・自治会活動に関心を持ってもらえるとありがたいことではありますが、なかなかそうならない現状について、若い世代の見解を聞く場面もありました。

生活のペースも、地域との関わりについての考え方も異なるシニアが中心の町会・自治会の活動に、子育て世代の人が入っていくことは難しい面もあり、実際に町会・自治会を運営しているシニア側にとっても、若い世代に合わせて町会・自治会の運営スタイルを変えていくことは一朝一夕に解決できる問題ではないですが、イベント的なものであれ何かしら関わる場をつくっていきながら、世代や立場の違う住民の関係づくりをしていくことは必要なだろうと、意見交換をみて感じました。

また、日頃から防災に取り組む団体として、「災害時に自分たちがどんなことができるか考え、災害時にこんな活動ができますと発信していくことが必要だと感じた」という意見がありました。

災害対策を考える時に「自分が何をできるか」という視点で考えることはとても大切です。誰かがやってくれるとみんなが思っていることは結局誰もやりません。地域の住民が、自分ができることをそれぞれ寄せ合って、はじめて地域の災害対策が形のあるものになります。

「自分は何もできない」ではなく、「自分ができることは何だろう」と考えることから、今後も地域の多様な主体の連携による災害対策を考えていきたいと思えます。

## 第4回柏市民活動講座（12/10） 柏の歴史文化を活かす

柏市では現在、地域総がかりによる文化財の保存活用に向けて、「柏市文化財保存活用地域計画」を策定しており、この計画の周知に向けて、市民活動団体・地縁団体や歴史文化に興味のある市民を対象に、12月10日（土）パレット柏において、柏市民活動講座「柏の歴史文化を活かす」を開催しました。

本講座では、地域計画のポイントについて柏市文化課より説明を受けた後、日頃、文化財の保存活用に寄与する活動を行っている4団体が活動内容を発表し、その後、参加者全員で意見交換を行いました。

歴史文化に熱い思いを持つ参加者が多く、様々な意見が出されましたが、団体活動の継続、行政と団体・団体同士の連携や後継者・担い手の育成の重要性などが話し合われました。



### ■テーマ ～柏の歴史文化を活かす～

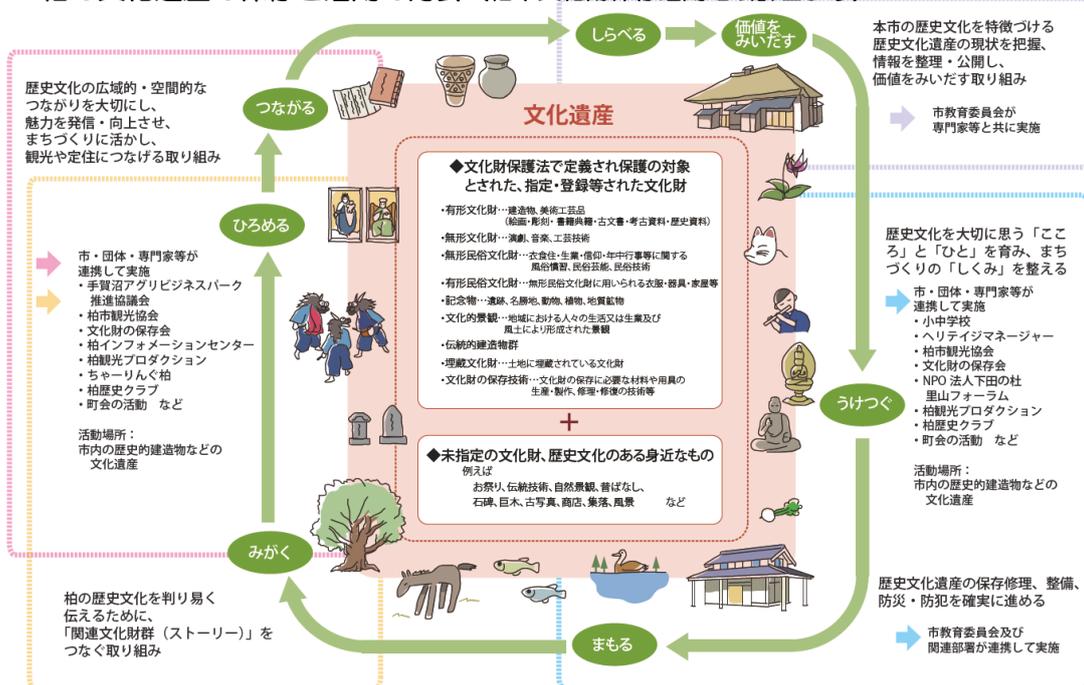
#### ■内容

- ① 柏市文化課より「柏市文化財保存活用地域計画」のポイントについて説明
- ② 関連団体の活動紹介
  - ◇ NPO 法人下田の杜里山フォーラム
  - ◇ 柏観光プロダクション
  - ◇ 逆井囃子保存会
  - ◇ 増尾民話の里づくりプロジェクト
- ③ 意見交換「文化財の保存活用に向けて、市民活動団体・地縁団体ができること、行政ができること」

#### ■活動発表団体

市民活動団体	NPO 法人 下田の杜里山フォーラム	酒井根地区に残された里山「下田の杜」の自然や文化資源を保全し、地域文化として継承する活動を行っている。
	柏観光プロダクション	多様な団体と連携して、フットパスツアーの手法で歴史文化資源を巡り、広く市民に体感してもらう活動を行っている。
地縁団体	逆井囃子保存会	地域に根差した伝統行事である「逆井囃子」を守り、継承する活動を行っている。
	増尾民話の里づくりプロジェクト	増尾地域に伝わる民話を通じて、地元の歴史・文化を地域住民に広める活動を行っている。

### ■柏の文化遺産の保存と活用の方針（柏市文化財保存活用地域計画より）



## 柏市民公益活動育成補助金（たまご補助金）団体の 活動紹介（幸紡会ラボかしわ／305Basketball）

柏市民公益活動育成補助金（たまご補助金）を活用して、今年度も、設立間もない7つの市民公益活動団体が活動しています。ニュースレターでは、順次、たまご補助金団体の活動状況をお伝えしています。新しい仲間たちの活動に注目してください。

### ■団体名

幸紡会ラボかしわ  
特定非営利活動法人



### ■団体紹介

「幸せをつむぐ社会を創造する」-医療・福祉・法律などに関わるさまざまな人たちが連携して研究・実践し、幸せに生きる社会の実現を目指し活動しています。「葉でつなぐブックライブラリ」「町かどラジオ～スタッフわさび大津ヶ丘～」などの事業に取り組んでいます。※ブックライブラリが補助金交付対象事業

### ■活動訪問記（サポートコーナー鬼山）

大津ヶ丘中央商店会の一角を拠点とする幸紡会ラボかしわは、令和3年に設立したNPO法人です。訪問した日はブックライブラリのオープン日でした。（訪問日:7/14）

事務所の壁一面には手作りの本棚と、寄付で集まったたくさんの本が色とりどりと並びます。本はその場で読むもよし、もちろん貸出しもしています。貸出し時に渡される葉（しおり）の裏に本の感想や次に読む方へのメッセージを添えることで、本と人、人と人がつながっていく仕組みです。

今後は子ども達への絵本の読み聞かせを行っていきたいとのこと。まずは「大津ヶ丘でこんなことやってるよ!」という想いを広く知ってもらうことがひとつの目標といったところでしょうか。皆さん、ぜひお気軽に立ち寄ってみてください♪



理事長の田中さん、理事の皆さんが笑顔でお出迎え★

ほっとひと息、  
畳のスペースも  
魅力です♪



### ■団体名

一般社団法人  
305Basketball



### ■団体紹介

誰もがバスケットボールができる環境を創ることを目的として、バスケットボールに関する様々な事業を行っています。

たまご補助金では、現状、未就学児がバスケットボールに触れる場所や機会が極めて少ないことから、幼児対象の「キッズバスケットボール体験会」を実施しています。

### ■活動訪問記（サポートコーナー松清）

9月7日に市内の幼稚園で開催された、「キッズバスケットボール体験会」を見学しました。子どもたちに語りかけながら、バスケットボールの手渡しパスからシュートリレーなど楽しく行っていました。

チームごとに何回ボールをネットに入れることができるか競争しましたが、子どもたちが楽しみつつも真剣に取り組んでいる様子が印象的でした。



体験会の後は、屋外で寸劇パフォーマンス「305レンジャー」。迫真の演技に悪者が出てきた時に泣き出す子どもが何人もいたり、ハプニングもありましたが、子どもたちにはいい体験会だったと思います。



## 柏・愛らぶ基金団体の活動紹介

柏市民公益活動促進基金（柏・愛らぶ基金）は、市民の皆様からの寄付金を活用して市民公益活動を支援する制度であり、現在、保健福祉や環境など、様々な分野で活動している 29 の団体が基金団体として登録しています。ニュースレターでは、順次、愛らぶ基金団体を紹介しますので、皆様のご支援をよろしくお願い致します。



(基金の詳細)

### NPO 法人 老いじたくあんしんねっと

高齢化社会を迎え、相続・遺言、成年後見制度やライフプランなど備えの大切さを普及する活動による社会貢献を目的として平成 17 年に設立された、弁護士・司法書士をはじめとする専門家のネットワークです。



(団体の詳細)

柏市との協働事業：老いじたくあんしん相談室は実施から 16 年を迎えました。また東葛・近隣各市で毎年セミナーを開催し、老いじたくの重要性を広く伝えています。基金は、**老いじたくあんしん相談室事業**に活用されています。

### 柏自主夜間中学

さまざまな理由で義務教育を受けられなかった人、現在の中学校の学習をしたいと思っている人、日常生活でさまざまな学びを必要としている人たちの支援をすること。そのために市民ボランティアとして学ぶ権利を守り、手助けを行うことを目的に活動しています（平成 21 年設立）。



(団体の詳細)

毎週木・土曜日にラコルタ柏にて学習室を開き、多くの人に『まなびの場』を提供、基金は**義務教育程度の学びを求める人への通年学習会の継続と周知**に活用しています。

## まち match づくりステーション

- パレット柏ワーキングスペース横の「まち match づくりステーション」は、柏市内で活動する市民活動団体の活動紹介や団体同士の交流・連携などに利用するスペースです。
- 1 月から 3 月までの利用予定は以下の通りです。是非、足を運んでください。
  - ◇ 12 月 17 日～1 月 16 日 柏市民公益活動促進基金「柏・愛らぶ基金」
  - ◇ 1 月 17 日～31 日 はぐはぐフォーラム実行委員会・子育て支援課
  - ◇ 2 月 1 日～14 日 ふるさと交流都市「只見」（柏市ふるさと交流協会他）
  - ◇ 2 月 15 日～28 日 柏おやじイノベーション（NPO 法人柏おやじダンサーズ）
  - ◇ 3 月 1 日～15 日 東日本大震災復興を支援する柏市民の会（予定）

### 編集後記

本号は当初、11 月 23 日開催予定のフリーマーケット「ぽかぽか市」の特集号として計画していましたが、残念ながら雨天中止となり、急遽、誌面構成を変更しました。

この記事に替わって掲載したのが、急に飛び込んできた明るいニュース「手賀沼スクールヤード ちばコラボ大賞（千葉県知事賞）を受賞」の記事です。この賞は、柏の市民活動団体の「協働・連携」の総合力が評価されたものであり、これからの市民活動の進むべき方向を示唆しているのではないのでしょうか？

さて、2022 年は、未だ出口が見えないコロナ禍の不安や、ロシアのウクライナ侵攻など暗いニュースが続き、市民活動も委縮する一年でしたが、2023 年は、明るいニュースに満ちて、市民活動に思う存分取り組める一年になることを祈るばかりです。（編集：及川）